

# 環。未ネットだより

会員登録中！

「環・未ネットだより」2号  
島本町消費者まつり参加特集  
2016年5月  
発行：しまもと環境・未来ネット  
連絡先：島本町役場環境課内  
Tel:075-962-2863  
Fax:075-961-6298

しまもと環境・未来ネット（島本町環境基本計画推進活動）

HP<<http://www.kankyo-mirai.net/>> <FB\_< a href="https://www.facebook.com/kankyo.mirai.net/">facebook.com/kankyo.mirai.net/>

## 《緑のカーテンプロジェクト》

今年も、島本町立第3小学校校庭の、環境学習室の前でゴーヤーの苗を種から育てています。育った苗を島本町消費者まつりで配布します。当会では、生ゴミを減らす、ということも活動の一つに考えています。その方法として、昨年度講演をしていただいた「高機バイオマス研究所」で生産されている「粉炭」を生ゴミに混ぜて堆肥作りを試しています。その堆肥も展示します。



消費者まつりでは、育てかたに詳しいメンバーが土、摘芯など、を丁寧に説明します。

昨年「緑のカーテン写真」展に応募していただいた、(ペンネーム)「ルートル 5858」さんの写真を引用させていただきます。消費者まつりで配布した苗をご自宅のベランダで立派な緑のカーテンに育てていただきました。



・9週目、背丈1.6メートル超に大きく生育したゴーヤーのグリーンカーテン 強い日差しをカット、外部視線を遮り、ベランダの外気温と室内温の体感を和らぐ涼感



・(左) 5/17(日) 消費者まつりで買った ゴーヤーの種苗2鉢植え付け (0.87cm程)  
・(右) 3週目、親づる摘芯、水、朝夕2、米とぎ汁等

初秋には、苗から育てた「緑のカーテンの写真展」を開催します。(応募方法など8月号町広報で発表します)

「緑のカーテン」が町内で広がるといいなあ！！

と言うわけで、緑のカーテンにはどれくらいの省エネ効果があるのでしょうか？昔から、日本にはヨシズが同じような役割を果たしてきました。島本町内でも淀川のヨシをつかったヨシズが生産されていました。直射日光を遮ると室内の温度は下がります。この効果は昔から経験済みです。それに加えて、植物のカーテンですと、地面から吸い上げた水分を葉の表面から蒸発させて、植物自体が熱くならないようにしています。長く直射日光をうけても温度が上がりにくいのです。昨年は、環境学習室の窓の外にゴーヤーの柵を作りました。外と室内窓際で気温を計りましたところ、緑のカーテン際で「4.4度」、室内窓際で「3.2度」とかなり温度が違いました。



・5週目、ネットにツル誘引、ぐんぐん伸びる



・ゴーヤー 花と実



## ゴーヤーを使ったエコ料理

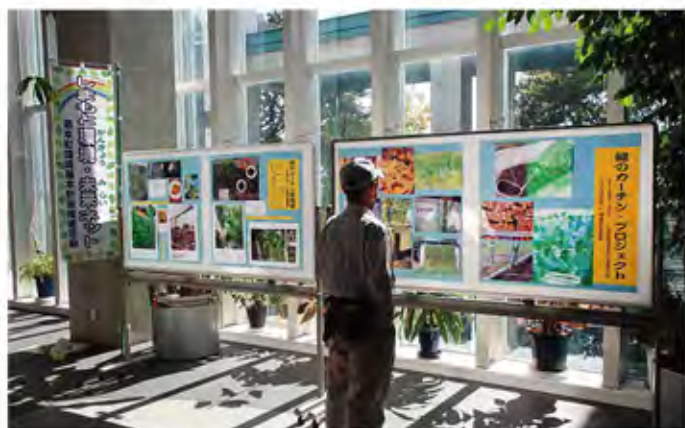
ロートル 5858 さんが育てられた緑のカーテンでもゴーヤーが収穫できたようですが、しまもと環境・未来ネットでも3小の環境学習室前で緑のカーテンを作っていました。日当りの良さ、地植え、施肥、近くのメンバーの毎日の水やり、などが功をそうしたのか大きく沢山の実を収穫しました。それを使って、食育インストラクターの山内美智代さんの指導で、親子参加、ゴーヤーをあます所無く使った、エコ料理教室を開催しました。レシピは4品、・夏野菜のドライカレー ・種とワタのかき揚げ ・ゴーヤーの佃煮 ・ゴーヤーのプリン、子どもたちもなれない手つきながらカイガイシク料理に取り組みました。



## 9月 緑のカーテン写真展

「緑のカーテンプロジェクト」のしめくくりはふれあいセンターロビーで、皆さんから応募していただいた出品写真の展示を行いました。

ペンネーム:1.喜日さん、2.がんさん、3.ロートル 5858 さん、4.環境課さん、5.ちゅらさん、6.石楽亭さん、の6人でした。知られていなかった



せいかちょっと寂しい応募数ですので、なにか工夫をして数を増やさなければ。8月の募集案内をこうご期待です。

ゴーヤー苗をよく育てるには土は市販の野菜のもので良いそうです。プランターでそだてる時は、直射日光がプランターにあたって温度があがり根を傷めない工夫が必要です。水やりはしっかりやるのが大事です。肥料は液肥でもよい。摘芯は重要、子ズルをシッカリ伸ばします。



### 摘芯の方法

以上は普通の方法ですが少しテマをかけて。

生ゴミで堆肥づくり

しまもと環境・未来ネットでは、「粉炭」を混ぜた、生ごみの堆肥作りを試作しています。炭には脱臭効果や微生物の住処を提供する、すぐれた性質があることから、土壌改良効果があります。また植物の根を活性化することが知られています。根が元気ですと植物も元気になります。

ここで使う粉炭は高槻バイオマス粉炭研究所の山仙プール式炭化平炉（特許取得）で焼いた炭です。この平炉は従来の炭焼き窯とことなり一度に大量の炭を作ることができます。島本や山崎からも竹材が運ばれています。島本でもこの平炉が稼働すると、ウッドマイレージの観点からも、エコな再生可能エネルギー（バイオ発電の可能性もあります）となります。試してみましょう！！



プール式炭化平炉に炭材を仕込み中